

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科

国語 科目 言語文化

教科： 国語

科目： 言語文化

単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：

使用教科書： （ 数研出版「改訂版 言語文化」（言文 104） ）

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	古文1 古文入門（説話） 【知技】・言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・古文を読むために必要な文語のきまりや特有の表現などについて理解する。 【思判表】文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 【主】進んで文語のきまりについて理解し、学習課題に沿って登場人物の心情などを読み取る。 定期考査	・古文入門 ・竹取物語（なよ竹のかぐや姫） ・古語辞典 ・国語便覧				○				12
	古文2 随筆 【知技】・言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・古文を読むために必要な文語のきまりや特有の表現などについて理解する。 【思判表】文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 【主】進んで文語のきまりについて理解し、学習課題に沿って登場人物の心情や随筆のおもしろさを読み取る。 定期考査	・随筆（徒然草） ・古語辞典 ・国語便覧 ・随筆（枕草子） ・古語辞典 ・国語便覧				○				1 12 9
	漢文1 漢文入門 【知技】 ・言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・漢文を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 ・古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 【思判表】文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 【主】進んで漢文の特色や訓読のきまりを理解し、見直しを持って、古典を学ぶ意味について考えを持つ。 定期考査	・訓読の基本 ・故事成語（漁夫之利、矛盾、狐借虎威） ・漢和辞典 ・国語便覧				○				12
	漢文2 漢詩 【知技】・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・訓読のきまりや漢文特有の表現などについて理解する。 【思判表】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、特に「読むこと」において内容の解釈を深めている。 【主】進んで訓読のきまりを理解し、学習課題に沿って、気づいた点を粘り強くまとめる。 定期考査	・漢詩 ・漢和辞典 ・国語便覧				○				9

2 学 期	現代文2 小説1 [知技] ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使う。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 [思判表] ・小説の内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化について自分の考えをもつ。 [主]・描かれている内容についての見解をまとめ、学習課題に沿って、発表や討論を通じて得た他の意見も踏まえながら、考えを深める。 ・古典を元にして作られた作品について理解を深め、学習課題に沿って、翻案作品と原作との違いや、翻案作品の創作性について考える。	・小説1(羅生門) ・国語辞典 ・国語便覧			○	[知技] ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 [思判表] ・小説の内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化について自分の考えをもっている。 [主]・進んで描かれている内容についての見解をまとめ、学習課題に沿って、発表や討論を通じて得た他の意見も踏まえながら、考えを深めようとしている。 ・古典を元にして作られた作品について理解を深め、学習課題に沿って、翻案作品と原作との違いや、翻案作品の創作性について考えようとしている。	○	○	○	12
	古文3 日記文学 [知技] 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 [思判表]・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 [主] 旧暦や古時刻、旧国名といった古典常識について積極的に調べ、学習課題に沿って理解を深める。	・日記(土佐日記) ・古語辞典 ・国語便覧			○	[知技] 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 [思判表]・文章の種類を踏まえて内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 [主] 旧暦や古時刻、旧国名といった古典常識について積極的に調べ、学習課題に沿って理解を深めている。	○	○	○	9
	定期考査						○	○		1
3 学 期	古文4 歌物語 [知技]・言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 [思判表]・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する。 [主] 進んで歌物語の特徴や表現の仕方について理解し、学習課題に沿って、各章段に描かれた内容を的確に捉えようとしている。	・歌物語(伊勢物語) ・古語辞典 ・国語便覧			○	[知技]・言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 [思判表]・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 [主] 進んで歌物語の特徴や表現の仕方について理解し、学習課題に沿って、各章段に描かれた内容を的確に捉えようとしている。	○	○	○	12
	古文5 俳諧紀行 [知技] 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 [思判表] 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 [主]・進んで文語のきまりや古典特有の表現を理解し、学習課題に沿って作者の考えを的確に捉える。 ・進んで自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、学習課題に沿って、作者のものの見方や感じ方、考え方を捉えたり、自分と関係づけて考えたりする。	・俳諧紀行(おくのほそ道) ・古語辞典 ・国語便覧			○	[知技] 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 [思判表] 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 [主]・進んで文語のきまりや古典特有の表現を理解し、学習課題に沿って作者の考えを的確に捉えようとしている。 ・進んで自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、学習課題に沿って、作者のものの見方や感じ方、考え方を捉えたり、自分と関係づけて考えたりしようとしている。	○	○	○	9
	古文6 和歌 [知技] 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりに加え、和歌を理解するために必要な古典特有の表現などについて理解する。 [思判表] それぞれの作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、どのような感情、心情が読まれているかを理解する。 [主]・和歌を粘り強く読み解き、学習の見通しをもって主題について考察する。 ・百人一首を実際に行うことで、我が国の文化への理解を深める。	・小説2(鏡) ・古語辞典 ・国語便覧			○	[知技] 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりに加え、和歌を理解するために必要な古典特有の表現などについて理解している。 [思判表] それぞれの作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、どのような感情、心情が読まれているかを理解している。 [主]・和歌を粘り強く読み解き、学習の見通しをもって主題について考察している。 ・百人一首を実際に行うことで、我が国の文化への理解を深めている。	○	○	○	4
	定期考査						○	○		1
									合計	105